



こみゅーと

「コミュニティユニオン東京」ニュース N0128号 2020年9月25日
 170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館 1F
 TEL 03-3946-9277 FAX 03-5395-3242 E-mail staff@cutokyo.jp
<http://www.cutokyo.jp> 「こみゅーと」ラテン語「流れを変える」
 「こみゅーと」バックナンバーをホームページで読めます

秋の組織拡大月間 1500人を突破します

10、11月の2ヶ月 組織の10%が目標

弱い立場の人はより弱い立場に

新型コロナウイルス感染による世界の死者は80万人を超え、100万人に迫る勢いです。その下で、弱い立場の人はより弱い立場に追い込まれています。総務省の9月1日発表によると、昨年同月比で非正規労働者の就業者が131万人減少、7月は過去最大の減となり、正規と比べ格差が鮮明です。

コミュニティユニオン東京（以下CU東京）は、7月に大会を開き1412人に到達、この1年間に365件の労働相談に応じて、頼りになる相談相手と「期待」を広げ、労働者の「駆け込み寺」としてさらに存在感を高めてきました。

1500人突破は重要な「通過点」

CU東京の1500人突破は、重要な活動の「通過点」です。この2年間、東京の各地で寄せられる相談に応じていくには、支部を増やし、分

江東支部 300人になりました



三多摩協議会は、執行委員会で早期1500人達成のために、秋の組織拡大目標をやりきると決意しました。

会を増やし、組織と体制を大きくしていくこと、直近の「1500人突破を」と話しあってきました。相談に応え、全国の個人加盟地域労組の運動への大きなメッセージであり、私たちの「見える景色」も変えるものです。

10月17日活動者会議を開催

秋の拡大に取り組み1500人を達成します。現在、1430人です。実増で70人増やします。そのために組織人数の10%を目標に、143人の新しい組合員を迎えます。10月、11月を月間とし取り組みます。10月17日に活動者会議を開催します。また、この期間、CU東京を知ってもらう、理解を広める活動に力を尽くします。組合員のみなさん、ご協力をお願いします。力をお貸しください

CU東京1500人超過達成目指す

秋の活動者会議

日程 10月17日（土）

10時30分～16時

会場 東京土建本部会館

（けんせつプラザ東京5階）

講師 全労連 黒澤幸一事務局長

各支部の奮闘

江東支部

伊豆大島特別養護老人ホームで パワハラ事件



2020年3月30日に伊豆大島の特別養護老人ホームで看護師をしている女性からの相談。

政府のコロナ対策によって学校が休校になった。そのため特別有給休暇の取得を願い出たところ、看護師長や事務長から「特別有給休暇は認められない」と言われたことがきっかけとなり精神的に追い詰められ退職となった。病休申請を求めると一方的に退職勧奨と職員寮から退去を求められ、組合に相談があった。文書で交渉の申し入れをしたところ、解雇と寮の退去は回避できたが、その後の処遇等についての協議のため8月7日に伊豆大島町で団体交渉を行った（区労連から3名参加）。

交渉では、法人に対し休職期間中の社保本人負担分と寮の家賃の負担を求めたが、寮費は法人が負担するが、社保本人負担分についてはゼロ回答であった。本人の意向を確認した上で今後の対応を検討中となった。

（書記次長 松井優希）

品川支部

黒字なのに整理解雇は許せない

4月中旬に7人（正規5人・非正規2人）全員が解雇された労働相談を受けた件。かの有名

な洋菓子店キルへボンを経営する「ラッシュ」という会社は、突然区内のお菓子製造工場をコロナ禍も一つの理由に即日閉鎖した。すぐに、解雇された労働者に全員集まってもらい、話を聞き、組合の説明もし、加入して貰いました。早速団交を申し入れに行く。

第1回の団交は品川労協で行い、7人全員と川村本部副委員長にも出てもらい、組合として「整理解雇の4要件」を満たしていない不当な解雇であると主張した。会社側は、交で「この時期に来たのがいけない」、「謝罪をしろ」と散々言いがかりをつけてきた。組合はこれを突っぱねた。また、譲渡前の会社の事を話し、本題には入らない態度を繰り返した。この会社は、「週刊新潮」にも取り上げられ、お家騒動も絡んでいると思われる。横暴な会社室長1人と団交も何回かやりましたが、要求が前進せず、公的機関も含め解決目指すことになり、地域労組こうとうの紹介で、東部法律事務所の西田弁護士含め3人が担当してくれることになりました。事務所に2回伺い、労働審判に訴える事にし、11月30日に第1回が始まる。会社の身勝手な解雇を許さないために頑張りたい。

（書記長 佐藤盛雄）

葛飾支部

コロナ禍 宿泊業界で解雇

ホテルの清掃やベットメイキング等の職務に派遣されていた75歳の女性Sさんからでした。会社には38人の労働者が所属していましたがコロナ禍で宿泊客が激減し会社担当者から「ホテル業界から撤退するので辞めてもらいたい」と通告され「ついては退職届を書いてほしい、理由は一身上の都合として下さい」と言われました。確かにここ数か月仕事がなかったのでほとんどの人が記名捺印したそうです、しかしSさんは「コロナは分かるけど一身上の都合はおかしい」と思い相談にいたり、回答がありました。

- ①経営者側の都合なのに一身上の都合はおかしい→自己都合退職は撤回する。
- ②明らかに会社都合による解雇である→若い人10人は雇用を継続する
- ③それにしても生活が有るので退職に応じる訳にはいかない→28人に付いては予告手当1ヶ月を支払う、未消化分の年休は全日数分買い取るというものでSさんは自分は75歳だし、ほとんどの人が年休残っているので何より若い人は雇用が繋がったので了解し、解決しました。
(書記長 柳生秀行)

江戸川支部

2件の労働相談 17名の組合加入

- ① 8月22日、Mさん(55歳男性)、Yさん(61歳女性)が出勤するや「仕事につかなくて良い。やっってもら仕事はない。」「9月末日で契約満了なので、契約更新はしない。9月末日までの賃金の6割は支払うので、出勤にはおよばず。」と一方的な通告を受け、相談。即座にCUに加入してもらい、加入通告書と団体交渉申入書をFAXで送信しました。8月24日、夏休み明けのNさん(46歳女性)も同様に「契約満了、出勤におよばず、荷物をまとめて帰宅するように。」と告げられ、CU江戸川に加入しました。9月7日に団体交渉を開催し、出勤におよばずの期間の賃金100%支給、本件雇止めは無効であるので10月1日から従前どおり就労、を要求し9月23日回答する事になっています。この会社は、1年前にも雇止め案件で紛争事件を起こした経緯がある会社です。その時に当該者に労働組合を紹介した人物がMさんでした。その時にMさんにも今後の事を鑑みると「組合に加入」していた方が良いと勧めていましたが加入には至りませんでした。結局、自身も雇止めにあう事になり結果CU江戸川に加入することになった案件です。
- ②9月7日分会結成。2019年10月Kさん(53歳男性)は劣悪な職場環境の下、交通事故(高速道でタイヤがバーストして横転)に遇っ

てしまいました。その事を不安視した妻の勧めで労働相談に来られ、今後の事を鑑みてCU江戸川に加入いたしました。会社経営陣に対して不満を持っている職員が複数名いるとの事で、支部分会を結成することを担当オルグが訴え続けていました。2020年8月29日にKさんは、職員2名と来所して分会結成について詳細な話し合いを行いました。9月4日Kさんを含め4名で来所して、加盟申し込み書13名分を提出し、分会結成の決断を行いました。9月7日昼に会社の会議室を使って分会結成大会を開催する予定でしたが、急遽経営側が会議室を使用することになってしまいましたので、同日夜にウェブで大会を開催し、分会結成、役員、規約、方針の承認を受けて、15名の分会が結成されました。9月10日会社社長に対し、公然化通知書、団体交渉申入書、要求書を手渡しました。最初の相談から分会結成までの間に、Kさんの妻の友人・知人の相談を受託し、解決してきました。このような活動を通じ、信頼関係を構築して今回の分会結成に結びついたと感じています。
(書記長 新木輝代)

大会が開かれました

ユニオンちよだ

ユニオンちよだは、2020年8月22日(土)エデュカス東京にて第14回定期大会を開催しました。



今年は、コロナ禍でしたので広めの会場を選ぶなど感染予防策をとり28名の方が出席されました。

冒頭、鈴木真理委員長からコロナの影響による解雇、退職勧奨、不利益変更から千代田区の労働者を守らなければならないと宣言がありま

最低賃金の引き上げに、SNS、インターネットを使って奮闘した青年たちの報告

社会で可視化されない痛みの声

インターネットで「怒り」を組織

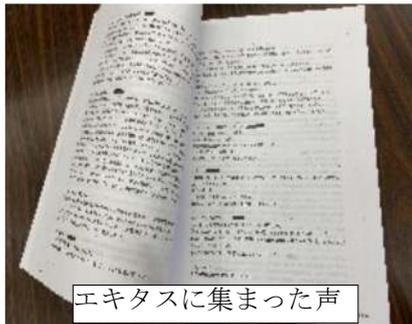
AEQUITAS（エキタス）はラテン語で「公正」という意味で、2015年から最低賃金1500円と、公正な社会の実現を目指す市民運動団体です。ほとんどのメンバーが労働組合とは無関係の20～30代です。主にSNSなどインターネットを使って、キャンペーンごとに賛同者を募る単発型の運動を主流にしています。

労働組合組織率が下がる中、新自由主義に苦しめられる若年層の「未組織労働者」当事者の「怒り」を労働組合が組織できなくなっています。AEQUITASがネットを主戦場として選んだのは、若年層が「怒り」を最も発露するのがネットであるからです。

先日、東京地方最低賃金審議会が最低賃金の引き上げを凍結させたことに対して、AEQUITASとして異議申し立て運動をツイッターで呼びかけ、わずか5日間で170人から異議の声が寄せられました。そのほとんどが、リアルでは顔も知らない20～40代の保育・医療・介護・建設・金融などのエッセンシャルワーカーの方々でした。「命を削らないで」「希望をください」という悲痛な声に、AEQUITASメンバーも読みながら思わず涙しました。ネットを駆使した運動は社会の中で可視化されず、労働組合の手が届かなかった痛みの声、そして「怒り」を



労働局要請 (中央が鎌田さん)



エキタスに集まった声

をすくい上げることが可能です。労働組合の活動家の皆さんがインターネットにも活動の幅を広げれば、新たな「未組織労働者」の声に出会えると同時に、彼らに「希望」を与えます。コロナ禍で不安定な働き方を余儀なくされるような「絶望」の中でも、仲間がいると「希望」を示すことができるのは、労働組合を置いて他にないはずで

(AEQUITAS・鎌田建さんに原稿を寄せていただきました)

(3面から)

した。続いて来賓から、CU東京の高木書記長と千代田区労協の小林副議長、日本共産党千代田地区の鈴木秀治労働部長の挨拶と激励を頂きました。そして、東京法律事務所の長谷川悠美弁護士よりコロナに関する労働問題を法律・判例を交えて講演して頂きました。

争議の経過報告では、年間28件（解決事案の14件、争議中の14件）の案件があり、当該組合員7名からは、外資系会社の悪質な退職勧奨や法人マタハラ解雇などの解決報告がありました。総括では、ユニオンちよだのホームページを改修しSNS戦略を拡充する事と、電話による労働相談も開始することで、より積極的に千代田区の労働問題に取り組んでいくことを確認しました。

大会で選出された次期役員は次の通りです。

委員長 鈴木真理 副委員長 茂呂文彦
書記長 鈴木明彦

■「まったく問題ない」「そうした指摘は当たらない」を繰り返し、疑惑にフタをした人物が自民党総裁、「安倍路線」を引き継ぐ。国民は「アベ政治を許さない」。

■NPO「もやい」などの週2回の食料配布。8/29には例年の2.5倍の人が並んだ。安倍政権で格差は拡大。「ワーキングプア（働く貧困層）」は増加を続け、1098万人（2018年）。

■CU東京は、10.11月組合員拡大運動。1500人突破の取り組み。佐藤委員長は「突破」によって「違った景色」が見えてくると呼びかける。一つの大きな発信になるに違いない。

■コロナ感染拡大で、弱い立場の人はさらに弱い立場に追い込まれている。文京の山田書記長は「今、組合が試されている」という。力を合せ、働く者の生活、権利・人権を守ろう。